

男女
共同
参画
from
むさしの

まなこ



女性・ 多様な視点からの 防災

- 防災は身近なもの
ー女性も防災の主体となり、自分で自分を守ることが大事……P2
- ～被災者からの声～
防災において、男女共同参画の視点は不可欠です……P5
- 武蔵野市は自助・共助・公助の三原則で地域防災を推進……P6
- 避難所運営組織メンバーインタビュー……P7

女性・多様な視点からの防災

災害時における被災者の困難さやニーズはさまざまです。その多様性に配慮し、一人ひとりに寄り添う支援とは、また自分には何ができるのか、今一度考えてみませんか。

防災は身近なもの — 女性も防災の主体となり、自分で自分を守ることが大事

東日本大震災で自身も被災しつつ、仙台の女性に寄り添い続けている
特定非営利活動法人（NPO法人）『イコールネット仙台』の宗片恵美子さんに、その活動内容や防災に必要なことを伺いました。

防災に女性の視点が必要だと
感じたきっかけ

30年以上前に宮城県沖地震を体験し、常に震災に対する危機感がありました。当時は地震だけでしたが、かなりの被害がありました。その後、震災が再発する確率は30年以内に99%と言われていました。その時点では、女性の視点で防災を考えるとということは全くありませんでした。1995年の阪神淡路大震災の報告では、NPO法人『女性と子ども支援センターウイメンズネット・こつべ』代表理事の正井礼子さんが、震災時の状況や女性が抱える困難、避難所における暴力などを明

らかにしました。阪神淡路では、女性が男性より1000人多く亡くなり、独り暮らしの高齢女性が多かったといいます。自宅が倒壊して下敷きになり、逃げ遅れるといった状況で、その背景にはまさに「女性と貧困」問題が隠れていたのです。

2008年に仙台市内1100人の女性を対象に調査したところ、回収率は80%近く、震災時の不安や心配を潜在的に抱えていることが浮き彫りになりました。自宅で介護している夫をどうやって避難させたいか、必要な物資がきちんと手に入るか、という心配が数多く寄せられました。その調査結果をふまえて、「女性の視点からみ

る防災・災害復興に関する提言」（下記参照）として、各地域や自治体に働きかけました。女性といっても、女性のそばには子どもやお年寄り、障がい者といった方々がいる場合が多いので、彼らの視点も入れた提言で、防災には多様な視点が必要だと訴えました。なかには、これを認めてくれる男性もいました。それが震災前でした。

東日本大震災発生時の 避難所での女性たちの状況

当時は大変な混乱状態で、スタッフと一緒に避難所に入り、女性たちの状況をまず把握し、支援しました。定員200人の所に1000人以上が押し寄せ

てきたため、妊婦やお年寄り、障がい者も、真つ暗の中、立ったままで横になれない状態でした。

なかでも、着のみのままで避難し、洗濯できないことが大きな問題だった



子育て中の母親を対象とした「語り合いサロン」を定期開催。同じ悩みを持つ者同士で語り合える場でつづりけるひと時となった

ので、まずは洗濯代行ボランティアから始めました。これは洗濯物を預かり、洗濯し、洗ったものを届けるボランティアで、衣類を預かり届ける人と洗濯する人を別にし、女性の気持ちに配慮したので、大変喜ばれました。

避難所にはプライベートな空間が確保されておらず、仕切りがない状況でした。更衣室や授乳室がないので、着替えるにも布団の中でという具合で、ストレスで母乳が出なくなってしまう方もいました。また、寝返りしたら隣に知らない男性が寝ていた、ということもあり、ダンボール1枚でも女性にとつては必要だという声がたくさんありました。

また避難所では性別役割が顕著で、男性がリーダーで、女性は炊き出しを

担うという構造がよく見られました。例えば300人分の食事を用意するにも1日3度となると、朝5時から夜の22時まで調理室に詰め、当番制にしても女性の負担が大きかったのです。

気持ちの弱っている女性のために、「語り合いサロン」を対象者別（子育て中の母親・家庭介護をしている女性・行政や支援にあたったNPOスタッフ）に設けました。自分たちが各地域に出向き、辛さを共感し経験を言葉にしてもらいました。

地域の防災力を高めるために

震災から半年経った頃3000人の女性に調査し、半数の回答を得ました。被災地での課題を整理し、解決しようとした調査でしたが、それぞれ自分の思いを吐き出すのに良いタイミングだったようです。「支援が必要な人が支援を受けられなかった」「女性のリーダーが欲しい」「議論の場に女性の参加が必要」という意見があったので、前回の提言を改訂し「男女共同参画の視点からみる防災・災害復興に関する提言」としてまとめました。実際、大震災の時、大半の男性は仕事で不在のため、ひとまず女性だけで避難所を開設しなくてはならない状況でしたので、女性たちもリーダーとして地域を

年 齢	10代			20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	
	中学生	高校生	その他									
体 型	身長（ ）cm			ぽっちゃり型 ・ がっしり型 ・ 普通 ・ やせ型								
	靴（ ）cm											
普段使っている化粧品メーカー		花王 ・ 資生堂 ・ その他（ ）										
		アレルギーなどで特定のメーカーしか使えない場合はレ点でチェックしてください→□										
下着類	（ ）ショーツ サイズ S/M/L/LL											
	ブラジャー	（ ）ノーマルタイプ サイズ [] 記入例 75・B ※どちらかを （ ）スポーツタイプ サイズ S/M/L/LL 選択してください										
		（ ）ブラカップ付きキャミソール サイズ S/M/L/LL										
	肌着	（ ）半袖シャツ サイズ S/M/L/LL ※どちらかを （ ）タンクトップ サイズ S/M/L/LL 選択してください										
衛生用品		（ ）生理用ナプキン（昼用・夜用をセットにしてお届けします） ※両方選択も （ ）生理用タンポン 可能です										
	（ ）サニタリーショーツ サイズ S/M/L/LL											
避難所で希望するサービス／行事など（いくつでも○をつけてください）												
（ ）ヘアカット （ ）パーマ （ ）カラーリング （ ）ハンドマッサージ （ ）フットケア （ ）マッサージ・整体 （ ）話し相手が欲しい （ ）相談相手が欲しい （ ）手工芸品づくり （ ）間仕切り （ ）男女別の洗濯物干し場 （ ）大きな鏡 その他 []												
※ご希望の支援の（ ）とサイズに○をつけてください。 ※場合によってはお応えできないこともありますので、ご了承ください。												
お名前												

パーソナルリクエスト リスト票

本当に必要としている物資の配布が行き届くように、避難所の女性たちに配布した「パーソナルリクエスト リスト票」。細やかな配慮が行き届いている



「パーソナルリクエスト リスト票」を基に配布物資を仕分けた。ハートが描かれたビニール袋で、中が見えないように気遣った。ともに「宮城登米えがおねっと」が実施

支える必要があると確信し、女性のリーダー養成と、その講座作りにも力を入れました。

また、私たちの団体では地域の防災力を高めるために、地域サイズの防災計画づくり、防災訓練の見直し、避難所ワークショップなどを地域に提案していきました。

避難所運営マニュアルには「避難所

に男女の責任者を配置」と記し、女性もリーダーとして組み込まれる必要があると提案したり、また、沿岸部では従来、年1回の防災訓練と炊き出し訓練だけだったものを、津波の避難訓練を月1回、時間も変えて土日、平日にもおこない、お祭りや運動会と組み合わせ、多くの人たちが参加できる訓練を提案したところもあります。



むなかた
宗片恵美子さん
特定非営利活動法人イコールネット仙台
代表理事
2003年イコールネット仙台の設立にかかわり、男女共同参画をテーマに幅広い活動を展開。災害時下の被災女性に対する調査や支援活動に取り組み、2013年から「女性のための防災リーダー養成講座」を実施し、地域防災の担い手となる人材育成を行う
<http://equal-net.jimdo.com/>

今でも続いているのは「避難所ワークシヨップ」です。地域の避難所になる施設を平時に借り、住民に確認してもらいます。バリアフリーでもなく、冷暖房完備でもない公共施設を、どのようにして安心した空間にするのかを一緒に考えます。住民同士で助け合いを支え合う関係を育てる意味もあります。地域にどんな人が住み、避難所に来た時にどんな不便や困難を抱え、どう支えていくか話し合います。アイデアを出し合う、そのプロセスが大事で、そうすると、いざ避難する時にコミュニケーションでき、効果的なのです。

私たちが提案するより、できれば地域の女性に地域のリーダーとなり、男



避難所予定施設を借り、地域住民同士で「自分たちの避難所をどうしていくか」とともに考え、シュミレーションしていく「避難所ワークショップ」

性と一緒に地域を支える側に回ってもらうと「防災リーダー養成講座」を2013年から始め、3年間で100人に達しました。5回の講座をふまえ、地域によって必要な防災の取り組みを企画してもらい、実践につなげます。さらに育てる側にも回ってもらう、2期目は1期生が、3期目は2期生が運営しました。3期目には受講希望者が100人も集まり、仙台市外からも参加があり、人材育成の輪が広がっていました。

今では、養成講座修了生が女性防災リーダーネットワークを設立し、定期的に集まり、スキルアップや情報交換し、他の地域の応援に回ったりします。1人ではできないことも、ネットワー

クがあればいろいろな形で実現できます。具体的には、中高生を巻き込んだワークショップや子ども向けの防災ゲームを考案・紹介したり、子育て中の母親を対象にした防災教室など、地域の組織と連携しつつ防災意識を高める取り組みをしています。

2015年の防災世界会議で、私たちの体験や実践を紹介できたのも大きな意味がありました。女性、高齢者、障がい者もみんな防災の主体とされた

のです。これまでは女性や高齢者、障がい者は脆弱な立場で、支援を受ける側とされてきたけれども、一人ひとりが防災の主体となり、自分たちも支援する側に回れる、女性もリーダーシップを発揮しなくてはならない、と強調されたのです。

これまでの震災経験をふまえた今後の課題

震災の経験は不幸な出来事でしたが、そこにとどまるのではなく、そこを乗り越えて、自分たちで地域を守る姿を発信し、他の地域に勇気を与える活動をこれからも続けていきたいです。こうした防災への関心は全国的に高まっています。どこでも災害は起こるわけですから、防災は

BOOKS★貸し出ししています！

男女共同参画推進センターの蔵書から

『女たちが動く』

東日本大震災と男女共同参画視点の支援

みやぎの女性支援を記録する会(編著) (生活思想社)



(参考文献)
内閣府男女共同参画局(平成24年)『男女共同参画白書(平成24年版)』、東日本大震災女性支援ネットワーク(平成24年)『こんな支援が欲しかった!〜現場に学ぶ、女性と多様なニーズに配慮した災害支援事例集』、内閣府男女共同参画局(平成25年)『男女共同参画の視点からの防災・復興の取り組み指針』、復興庁男女共同参画班(平成28年)『男女共同参画の視点からの復興〜参考事例集〜』ほか

被災者の声から実現した具体的事例

- ◆洗濯代行ボランティア(仙台市内)
洗濯物を運ぶ人と洗濯する人を分け、プライバシーを守る
- ◆化粧品、リップなどの配布
- ◆仮設住宅内での「語り合いサロン」の定期開催
境遇、環境が近い人同士が集まり、語り合う
- ◆各自のサイズに合った下着の配布
「宮城登米えがおねっと」という登米市のグループが実施
- ◆更衣室の設置・調理ボランティアの配置
行政が設置

身近なものだと考えてほしいです。自分で自分を守るのはすごく大事なことです。防災とは何か、また災害時にどうすべきか、いろいろな局面で考え、できれば地域の一員となって、地域を守る側に回っていただけだと嬉しいのです。

本書は、編著者がそれぞれの立場から、男女共同参画視点の支援とは何かを問いながら行った、東日本大震災の被災女性による被災女性のための支援記録。著者の一人、宮城学院女子大学浅野富美枝(ふみえ)教授はその中で、被災女性のニーズとは「生活者のための、ケアを必要とする人たちのための、生きる力を回復するための」ニーズだと述べ、男女共同参画視点の支援とは、単に物資を提供することではなく、被災者が自ら声をあげ、人とながり、生きる力を回復する支援だった、と結んでいる。防災・災害支援を考える上で重要な視点を示唆する一冊。

〔文 矢後麻美〕



『まなこ』サポーターの200字コラム

女性・多様な視点からの防災

自分ができることを



市川優花 ●三鷹市牟礼

手話の勉強で、聴覚障害者の方から、東日本大震災の避難生活で困ったことを伺う機会がありました。食料配布の放送が聞こえず列に並べなかったり、何が起こっているのか分からず不安でたまらなかつたとき、胸が痛みました。聴覚障害は見ただけでわかりづらいので、手助けを受けやすくするため、災害時に巻くバンダナを作成するなど工夫されているそうです。見かけたら筆談で呼びかけたり、係の方に伝えるなど、できることをしたいと思います。

大切な人を守る為に



江口寛美 ●吉祥寺本町

災害は、いつ何処で発生するか予想ができません。阪神淡路大震災が起こった当時、ある避難所では大人用オムツ使用者は部屋に入れてもらえず、寒いなかテント生活だったそうです。私の祖父もオムツを使用しているため他人事とは思えず、とても心が痛んだと同時に、もし祖父や自分が被災したら今の生活をどう守れるか、不安にもなりました。あれから22年、災害に遭っても、困っている人に手を差し伸べられるような自分でありたいです。

防災意識が高まった日

神谷奈央子 ●吉祥寺南町



昨年、周囲の流行にのって我が家も子連れキャンプデビューした。初めてのテントに子どもたちは大興奮だった。が、夜中は強風に大雨…。不快な音と不安でよく眠れない夜を過ごすことになった。トイレに行くのも容易ではない。防寒対策も甘かった。持参した明かりだけでは心もとなく、非常時の過ごし方まで考えさせられた。翌朝はすっかり晴天。油断していた我が家の防災対策に警鐘を鳴らされたかのような日だった。

女性

- ・着替える場所や物干し場がない。避難所に間仕切りや更衣室がなく、布団の中で周りの目を気にしながら着替えなければならない。
- ・生理用品などが受け取りにくい。
- ・下着や肌着など、種類や自分のサイズにあうものがない。
- ・化粧品類が二の次にされがちで不足する、ぜいたく品と言われる。
- ・仮設トイレの設置場所が暗く、利用することに不安を感じる。
- ・被災時はプライバシーや安全を守りにくい環境となり、性暴力のリスクが高まる。

男性

- ・家族を経済的に支え、守るのは自分の役割であると、責任を抱え込み追いつめられやすい。
- ・他人に弱音を吐くことを避け、悩みや困りごとを相談しない傾向があり、精神面で孤立する。
- ・仮設住宅において、引きこもりや孤立が問題となることが多い。
- ・震災後に、飲酒量が女性に比べ増加した事例が見られる。
- ・働き盛りの男性は、仮設住宅に移ってから仕事に復帰するまでの間、毎日懸命に働いていた時間をどのように過ごせばいいのか、行き場のない思いを抱えがちになる。
- ・震災後に父子家庭となった男性からは、料理、子どもの預け先などで生活上の困難が発生する。

単身世帯

- ・物資の配布日時が平日の昼間であることが多く、仕事をしているとなかなか受け取りに行けない。

- ・避難所に間仕切りがなく、夜安心して眠れない。嫌がらせて隣に寝にくる男性がいて困る。
- ・炊事や洗濯、掃除などの負担が集中する。避難所生活中は、家族の世話を続けながら、さらに炊き出し当番や物資配給の列に並ぶなど、とても忙しい生活を強いられる。
- ・固定的な性別役割分担意識から、がれき処理は男性、避難所の食事準備は女性、と担当が固定化され、かつ、がれき処理には日当が支払われるのに対し、食事準備には対価が支払われないことがあった。
- ・パートやアルバイトなどの非正規雇用が多いため、解雇・雇止めされるおそれがある。
- ・被災後、女性の希望する仕事(食料品製造の職業等)と求人の多い仕事(建設・土木の職業等)とにミスマッチが見られる。

～被災者からの声～

防災において、男女共同参画の視点は不可欠です。災害時には具体的にどのような問題が発生するのでしょうか。過去に発生した災害から浮き彫りになった、さまざまな立場からの声を紹介します。

乳幼児とその家族

- ・プライバシーが守られた授乳スペースがない。
- ・ストレス等で母乳が出なくなってしまう、乳児が十分な栄養をとれない。
- ・哺乳瓶やお湯の用意、沐浴などの衛生管理が難しい。
- ・避難所生活中、子どもの夜泣きで周囲に気を遣う。
- ・家族と離れて子どもを育てなければならない可能性もある。
- ・仮設住宅が町の中心から離れた所に建設される場合も多く、子どもの預け先がない、学校までの送り迎えが大変といった問題が起きる。
- ・環境の変化に適應できず、子ども等が落ち着かない、眠れない。
- ・仮設住宅内に乳幼児や学童が安心して過ごせる場所が不足する。

武蔵野市は自助・共助・公助の三原則で 地域防災を推進

今後30年以内に首都直下地震が起きる確率は70%といわれています。大震災発生時の対応と、日ごろの備えについて、武蔵野市防災課職員の大澤皓太さんと中島一絵さんにお聞きしました。

大震災発生時の対応

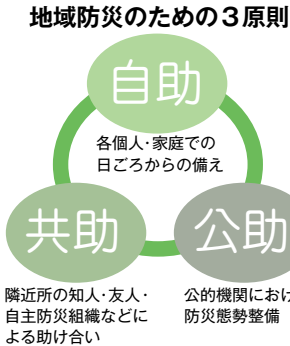
大澤 蔵野市では市内の公立小・中・高校の計20校の校庭を一時集合場所に指定しており、これらの体育館が避難所となります。発災後、自宅が倒壊や火災で危険な場合は、避難所で生活することになります。発災から3日後以降は外部から物資がくると想定し、各避難所の倉庫には1600人、3日分の食糧・生活必需品を備蓄しています。災害用トイレも都立高校を除く各校10基（うち2基は車いすも利用可）整備しています。ただ、葉や入れ歯など自分にしか合わないものは個人で用意してください。また、避難所はスペースに限りがあり、発災直後はダンボールなどの仕切りもあります。人数が多いため、トイレにいつでも行ける

という保証はありません。

このように避難所では、プライバシーが守られにくく、環境の変化による体調悪化や震災関連死も問題になっています。そこで市としては、なるべく自宅での生活継続をお願いしています。

中島 災害後も安全に自宅で生活できるようにするには、住まいの耐震化・家具の転倒落下移動防止・飲食物の備蓄など、日ごろの備えが必要となります。熊本地震の際、私は益城町に派遣され、建物の被害認定調査を担当しましたが、ひび程度で済んだ家もあれば、潰れてしまった家もあり、耐震化の重要性を強く感じました。

備蓄については、長期保存できるものより、日常で使うものをストックし、使った



情報入手の方法
・防災行政無線、広報車
・防災行政無線電話応答サービス（TEL 0422-60-1920）
・むさしの防災・安全メール（http://mobile.city.musashino.lg.jp/index.cgi?page=4 で登録）
・むさしのF.M(78.2MHz)
・ケーブルテレビJ-COM 武蔵野・三鷹
・災害用伝言ダイヤル171
・携帯電話会社の災害用伝言板
・市公式ツイッター（アカウント名 musashino_hope）
・市公式フェイスブック（https://www.facebook.com/musashinocity）



市で配布している「防災ハンドブック」

開催しますので、ぜひご参加ください。
今後の課題
大澤 これまでの震災では、男性主体の避難所運営の課題が報告されています。市では女性が活躍している避難所運営組織が多く、そういった意味では生活者としての女性の視点も取り入れやすくなっています。

性別だけでなく、いろいろな立場の方がいることを理解していかなくてはなりません。現在、市で作成した「避難所運営の手引き」の修正作業を進めており、多様な視点からの防災についても盛り込む予定です。各避難所には、高齢者・障がい者・妊婦など配慮が必要な方のための「おもしろいルーム

災害が起きた時に地域を守りたい！ 防災力のある地域を目指して

市内には市民が中心となった避難所運営組織が13団体あります。その中から、先駆的存在である境南地域、そして女性が中心となり運営している一小地域の取り組みについてお話を伺いました。

—それぞれの地域の特徴は？

一小地域防災ネットワーク（以下「一小」） 一小地域は、東急百貨店の西側に位置し、住宅やマンションなど新しく地域に入ってきた方が多いです。自営の方や、若年層の共働き世帯が多いという地域性もあって、地域活動は女性を中心で行っています。

境南地域防災懇談会（以下「境南」） 境南地域は市の中央から遠いため、他の地域に比べ

住民が運営する避難所運営組織	
避難所▶	現在活動している組織
第一小▶	一小地域防災ネットワーク
第二小▶	第六中▶ 武蔵境自主防災会
第三小▶	吉祥寺南町防災ネットワーク
第四小▶	四小地域防災会
第五小▶	第五小学校避難所運営協議会
大野田小▶	第四中▶ 大野田地域防災の会
境南小▶	境南地域防災懇談会
本宿小▶	第三中▶ 東部防災会
千川小▶	都立武蔵野北高▶ 千川地域防災会
井之頭小▶	井之頭小学校避難所運営協議会
関前南小▶	第五中▶ 関前防災会
桜野小▶	第二中▶ 桜野地域防災ネットワーク
第一中▶	一中地域防災会

—活動内容は？
一小 市から任されているのが、災害時の避難所運営です。このため各地域とも、講習会や年1回の防災訓練の準備や運営などを担っています。昨年、一小で取り組んだ訓練に避難行動要支援者対策訓練がありま

自分の地域は自分で守ろうという思いが強いのが特徴。17年前より自主的に地域防災を始めました。また、日赤など医療機関もあり、防災の観点で取り入れるべき情報を得やすいです。
—やりがいは？
一小 子どもたちの素直な反応です。「訓練で体験したことが身についた」といった手紙をもらえると嬉しいですね。また、自身が防災について勉強できるので、災害を乗り越えられる備えができ、自信につながりました。知っているのと知らないのでは、万一の時に取れる対応が異なります。いつかは起こることなので、「他人事」でなく「自分事」にしてほしいです。



中島一絵さん 武蔵野市防災安全部 防災課消防防災係主事
大澤皓太さん 武蔵野市防災安全部 防災課消防防災係主任

分だけ補充していく方法が良いと思います。特にペットのいる家庭では、自宅での生活を継続できるよう備えてください。やむを得ず避難所にペットを連れて避難する場合、ケージやフードは飼い主の責任で用意していただきますが、ペットは人とは別の場所です。避難所の運営について

大澤 市では地域住民と市職員等が協力して避難所の運営に当たることとなっています。発災時の防災課職員の任務は、本部での情報収集のため、避難所には行きません。防災課以外の市職員が初動要員として各避難所に7名割り当てられており、震度5弱以上の地震が発生した場合に、一時集合場所にかけつけます。

また、市内には地域住民による避難所運営組織が13団体あり、日ごろから避難所の設置・運営に関する訓練や話し合いをしています。市としても地域の力に期待しており、連携して防災に取り組むことで、被害を最小限に抑えることができると考えています。
情報提供について
大澤 災害が発生したときは、正確な情報

（福祉避難室）を設置します。医療トリアージ同様、共同生活が難しい方のための*トリアージの導入も検討しています。

避難所では女性が巻き込まれる犯罪が起きやすいので、安全管理にも目を向ける必要があります。

地域のグループ・保育園などで防災に関



境南地域防災懇談会 大矢照男さん



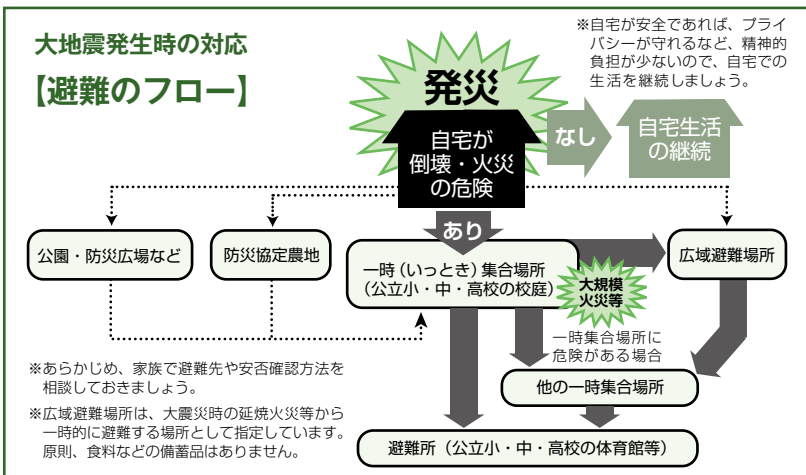
一小地域防災ネットワーク 大屋朋代さん（左下） 山崎フミ子さん（右下） 鬼頭麻佐さん（左上） 中島千恵子さん（右上）

境南 避難所を円滑に運営させるためにも、日ごろから訓練や話し合いをして、人の輪を作っています。学生たちの参加もあり、皆で地域を守る機運が高まっているように感じます。

—最後にひとこと

一小 自分磨きや学びの講座へ足を運ぶシニア層が大勢いらっしゃいますが、自分のことだけでなく、周りに少しでも目を向けてもらえれば…と。自分だけでなく、街の魅力も高められる地域防災の会です。
境南 防災の知識を持つことは、何よりも自分の身を守ります。自分を守れば他人の役にも立てます。勉強会もやっています。よ。自分のため・家族のため、地域を守るために1人でも多く訓練へ参加してもらえればと思います。

「取材 藤田和香子／取材・文 友野その子」



『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女共同参画の視点＝「まなこ」で見えていこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

もしDVにあっているなら… 相談窓口をご案内します（相談は無料です）

●警視庁総合相談センター 03-3501-0110（祝日・年末年始を除く月～金曜 8:30～17:15）

【配偶者暴力相談支援センター】

●東京ウィメンズプラザ 03-5467-2455（年末年始を除く毎日 9:00～21:00）

●東京ウィメンズプラザ（男性のための悩み相談）
03-3400-5313（祝日・年末年始を除く月・水曜 17:00～20:00）

●東京都女性相談センター多摩支所
042-522-4232（祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～16:00）

●東京都女性相談センター
03-5261-3110（祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～20:00）

夜間・緊急の場合 ●警察（事件発生時）110番
●東京都女性相談センター 03-5261-3911（夜間・休日のみ）

●武蔵野市役所 女性総合相談 専門の女性相談員が対応します。
予約制 ①第2木・第4火（相談時間 50分） ②第1土・第2金・第3月・第4火
予約専用①0422-60-1921 ②0422-37-3410
①平成 29 年3月末まで ②平成 29 年4月以降

●武蔵野市役所 ひとり親・女性相談
0422-60-1850（祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～17:00）

その他、今後取り上げてほしいテーマなどについて
活発なご意見をいただきました。

- 表紙がこわかった。（30代女性）
- モラル・ハラスメントは、受けた側の受け取り方しだいなので、線引きが難しい。（40代女性）
- 気づきになった。子どもに対しても無意識にやっている。（30代女性）
- だれもが被害者・加害者どちらにもなりうる可能性をもっている。（30代男性）
- 2人以上いたら、モラルは起こりうるし、人が生きていくうえで、おこること。その中で、人権を尊重する気持ちをもつことが大切。（60代女性）

平成28年度『まなこ』第3回サポーター会議

INFORMATION 市民活動推進課 男女共同参画推進センターから

●邑上市長が「イクボス・ケアボス宣言」 を行いました

1月4日、武蔵野市長が職員に向けた年頭挨拶において、育児・介護支援をはじめとして全職員のワーク・ライフ・バランス向上を支援するとともに、自らも率先して仕事と生活を楽しむ組織のリーダーになることを宣言する「イクボス・ケアボス宣言」を行いました。この宣言を受け、1月31日に部長課級の職員に研修を行い、役所内に意識の浸透を図りました。



※ケアボスの「ケア」・・・
育児（child care）、
介護（nursing care）、
自らのマネジメント（self care）



●男女共同参画情報誌『まなこ』サポーターを募集します

家庭、地域、社会、労働の場などで男性・女性が共に抱えている問題について関心がある方、活動している方で『まなこ』のサポーターをやっていたりの方（ボランティア）を募集します。
主な活動：①年4回程度のサポーター会議出席（託児有、3ヵ月以上就学前まで） ②各号のテーマに関する意見、感想などの提供 ③これから発行する『まなこ』の企画や取材先の提案など
募集：市内在住・在勤・在学の方。10名程度（超えた場合は調整あり）。任期は1年間（平成30年3月31日まで）。

申込み：Eメール・はがき・FAXで

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④作文：私の興味ある『まなこ』のテーマ（100字程度） ⑤（活動団体があれば）所属団体名を記入し、男女共同参画推進センターまで。

締め切り：平成29年4月7日必着

4月12日（水）に第1回サポーター会議予定

●男女共同参画推進センターで女性総合相談を開始しました

市役所7階で月2回実施している女性総合相談

（無料）を、平成29年1月から同センターでも開始しました。これに伴い、4月より市役所での同相談を同センターで引き継ぐこととなります。女性の専門相談員と相談室での面談または電話（どちらでも予約制）で行います。女性が暮らしの中で抱えるさまざまな悩みについて、相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

相談時間（1回50分）※4月以降のものとなります

- ・第1土曜：午後1時～、2時～、3時～
- ・第2金曜：午前9時～、10時～、11時～
- ・第3月曜：午後7時～、8時～
- ・第4火曜：午後1時～、2時～、3時～

場所 男女共同参画推進センター相談室

予約受付電話 0422-37-3410

相談内容 ・夫やパートナーのこと、家族のこと
・職場や学校でのことそのほか、どんな些細なことでもかまいません。○相談無料 ○秘密厳守

●平成29年度男女共同参画推進団体の登録・更新について

女性の学びや社会進出の支援など、男女共同参画の推進を目指す活動をしている団体を「男女共同参画推進団体」として登録しています。

※詳細はホームページからご覧いただけます。

市民部市民活動推進課 男女共同参画推進センター

〒180-0022 武蔵野市境 2-3-7 TEL 0422-37-3410 FAX 0422-38-6239
E-mail danjo@musashino.lg.jp URL <http://www.city.musashino.lg.jp>

* STAFF *

サポーター 市川優花 入江規夫 江口寛美
岡田礼子 神谷奈央子
企画・取材・編集 杉田真奈美 友野その子 藤田和香子 丸山麻帆
矢後麻美 市男女共同参画推進センター職員
編集協力 栗原 毅
表紙デザイン ふじわらわ
レイアウト 上田ジュンコ
印刷 シンソー印刷株式会社

* * * * *

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、美容院、大型店舗、金融機関、おふろ屋さんなど市内の約450か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動推進課男女共同参画推進センターまで。

◎綴じ込み返信はがきで、ご意見や感想をお寄せください。
次号は平成29年8月初旬発行予定です。

「男女共同参画視点の支援とは、生きる力を回復する支援だった」――被災当事者ならではのとても重い言葉。この言葉との出合いを無駄にしないよう、震災時の自助、共助についてリアルに考えていかなければと思う。
（矢後麻美）

取材を機に備蓄品を見直し、防災訓練にも参加した。訓練の内容が工夫されていて、地域の方に感謝。私も行動しなくては。
（藤田和香子）

「防災も男女共同参画意識も日々の暮らしから」という事を痛感しました。意識を高くもって、丁寧に暮らしていきたいと思います。
（丸山麻帆）

Editors' Notes 編集 * 後記